

つどう

まなぶ

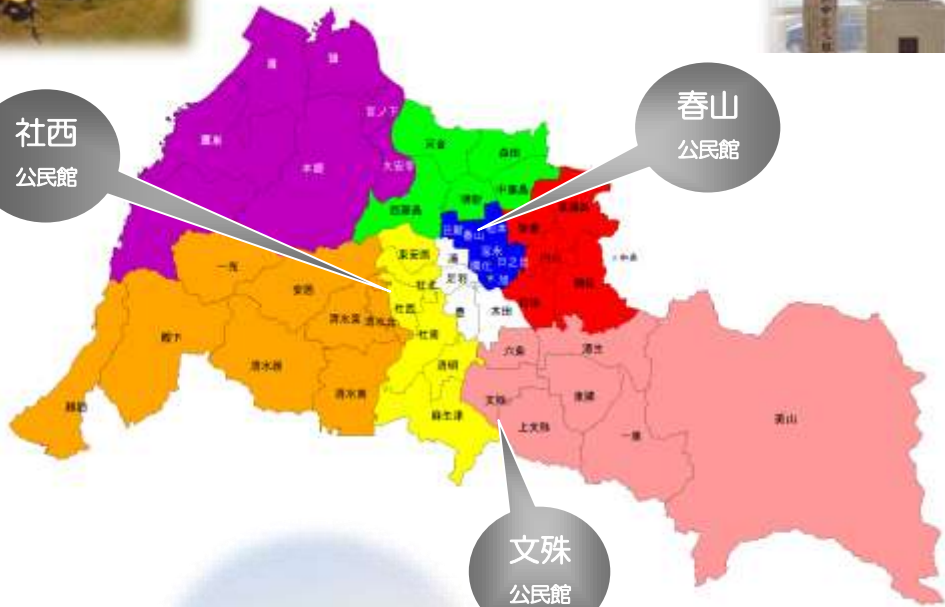
むすぶ

福井市の公民館



社西
公民館

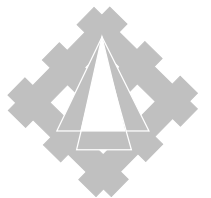
春山
公民館



文殊
公民館

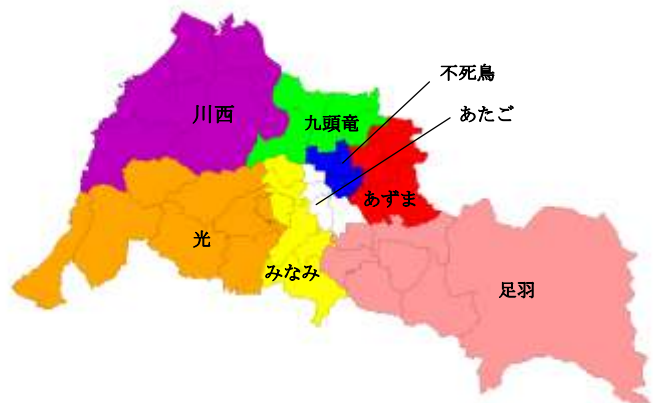


第2号



福井市公民館一覽

ブロック	No.	館名	所在地	電話番号	掲載号	ブロック	No.	館名	所在地	電話番号	掲載号	
あたび	1	木田	木田1丁目1401	36-0042		光	28	安居	本堂町7-4	37-1234		
	2	豊	みのり3丁目106-8	34-0344			29	一光	下一光町6-5	37-0168		
	3	足羽	足羽2丁目12-31	35-0041			30	殿下	風尾町1-13	97-2377		
	4	湊	学園1丁目4-8	22-0032			31	越廼	柴崎町1-68	89-2182		
不死鳥	5	春山	文京3丁目11-12	22-0057	2号		32	清水西	大森町20-43-1	98-4560		
	6	宝永	松本4丁目8-4	22-0036			33	清水東	三留町14-11-1	98-4510		
	7	順化	大手3丁目11-1	20-5458			34	清水南	風巻町21-17	98-4590		
	8	松本	文京1丁目29-1	22-0085			35	清水北	グリーンハイツ5丁目131	98-5477		
	9	日之出	四ツ井1丁目7-24	54-0040			川西	36	大安寺	四十谷町5-20-1	59-1001	
	10	旭	手寄2丁目1-1	20-5364				37	国見	鮎川町195-7	88-2004	
	11	日新	文京5丁目1-8	21-7225		38		鶉	砂子坂町5-58	83-0433		
12	清明	下荒井町8-414	38-0043		39	棗		石橋町4-14	85-1495			
13	東安居	飯塚町6-18	35-9566		40	鷹巣		蓑町16-2-1	86-1001			
14	社南	種池2丁目206	35-9559		41	本郷		荒谷町19-55	83-0582			
15	社北	若杉4丁目308	35-9111	創刊号	42	宮ノ下		島山梨子町22-9	59-1150			
16	社西	久喜津町65-23	34-7910	2号	足羽	43		酒生	荒木新保町37-9-5	41-2503		
17	麻生津	浅水三ヶ町1-93	38-4383			44		一乗	西新町1-31	43-2001		
あずま	18	和田	和田東1丁目1504	22-0038				45	上文殊	北山町34-1	41-0516	
	19	円山	北今泉町7-12	54-0048			46	文殊	太田町4-11-2	38-0550	2号	
	20	啓蒙	開発1丁目2105	54-0046			47	六条	天王町43-4	41-1001		
	21	岡保	河水町10-13	54-2519			48	東郷	東郷二ヶ町6-13-1	41-0306		
	22	東藤島	藤島町48-1-1	54-0039			49	美山	美山町2-12	90-7111		
九頭龍	23	西藤島	三郎丸1丁目1410	22-0040		50	中央	手寄1丁目4-1	20-5459	創刊号		
	24	中藤島	高木北2丁目1001	54-0045								
	25	河合	川合鷺塚町9-18	55-0001								
	26	森田	下森田藤巻町2	56-0195	創刊号							
	27	明新	灯明寺町35-1-1	22-7880								



《福井市の公民館に思う》



公民館と共に歩んで

福井市教育委員 元中央公民館主事 元社南公民館主事

佐藤 藤 枝

昭和54年、社公民館の主事に推薦され、56年度からは“社南と社北”に分かれた社南公民館に配属されました。新館長と新主事1名を迎え三人で、新公民館の土台づくりに昼夜奮闘。参考資料もない無垢の状態から学級・講座と地区行事、それに関わる会議の開催、各種団体の準備・発会の手伝いなど多岐に渡る業務は大変でした。それに加えて、当時としては珍しい地域づくり活動にも力を入れてきました。人口増で新しく地域が誕生するということは、新旧住民の葛藤が地域課題としてあり、地域の意識とまとまりが必要でした。地域づくり活動の核となってもらった壮年会づくり、その学習活動、年層別団体（子ども会、青年会、婦人会、老人会）を網羅したふるさとづくり協議会の組織づくり、その具体的・段階的活動で共通の体験をし、人を繋げるきっかけづくりに奮闘する毎日でした。休館日には、仲間と一緒に勉強会（つむぎの会）を立ち上げ、主事同志の研鑽を積んできました。そこでの福井大学柳澤先生のアドバイスや事業の捉え直しは、主事のあるべき姿に気づき、多くを学ばせていただくことができました。

そして10年、更に人口増で地区が増えることになり、その準備をし、平成3年4月に社西公民館が誕生。それを機に私は中央公民館に異動しました。

主事を1名増やして中央公民館を対外的に分かりやすくするための異動でした。順化公民館の事務所と一緒にあった事務所を隣の会議室へ移し、二つの公民館が明確になりました。2名の社会教育指導員の先生方と若い先輩主事さんの4名でのスタートでした。中央公民館における教育事業の一部と、地区公民館との連絡調整役として市公民館連絡協議会の事務局を担当し、地区公民館の主事とは違った役割を意識しました。

中央公民館は、平成19年度から勤労婦人センターと勤労青少年ホーム・青年の家の事業を引き継ぎ、事業・職員ともに拡充してアオッサに移転しました。平成22年に退任するまで通算30余年の私のあゆみは、それぞれの公民館の節目に遭遇し業務は倍増しましたが、貴重な体験と幅広い方々との出会いがあり、多くを学ばせていただきました。字数の関係で、その都度の具体的な苦労や喜び、活動の展開などは紹介できませんが、“主事は、学習や活動のいろいろな手法・プロセスを大切にしながら、よりよい人間関係をつくり、よりよい地域をめざす活動を援助していく責務がある”をいつも基本においてきました。課題を抱えながらも努力してきた私の公民館でのあゆみ、多くの方々に支えられ一緒に汗を流し悩み喜んだ体験は、私の誇りであり財産となっています。

松平春嶽公と橋本左内先生の春山 — 清新な文化と歴史のまち、学びのまち —

春山公民館

1 春山の名付け親は松平春嶽公



【橋本左内先生胸像】

到底自分が及ぶものではない」と称賛した橋本左内先生を育んだ地である。

(1) 春山公民館の橋本左内先生胸像

春山公民館図書コーナーに等身大の橋本左内先生胸像と座右の銘の木碑が飾られている。胸像は福井市市体育館前にあった青年の家3階大講堂で50有余年、青雲の志を抱く若者を見守ってきた像であり、平成21年、同館取り壊しに伴い春山公民館にお迎えをした。また、木碑には左内先生が愛用の本箱のフタに書き込み自らの修養の目標とした言葉、「急流中底之柱即是大丈夫之心(はげしい流れの中に、たおれず、流されず、毅然と立ってがんばる底柱、これぞ男子の真の姿である)」が書き記されている。

(2) 春山地区の概要

春山は藩政時代から戦前にかけては北陸道と北国街道が合流し、福井城下の交通の要であり商工業の中心地であったが、今では文教・法律・司法の町として様々な顔を持ち、福井大学、藤島高校、啓新高校、明道中学校、春山小学校などの学校施設、また県立美術館、市立図書館、文化会館、市民福祉会館、フェニックスプラザなどの文化施設、裁判所や法務局・税務署の合同庁舎など、多くの施設がある。

2 橋本左内先生を育んだ春山

橋本左内先生は天保5年、福井城下常盤町(現、

春山2丁目)で医家に生まれた。幼いころから学問を好み15歳の時に「啓発録」を著し、16歳の時大阪に出て緒方洪庵の適塾で蘭学、西洋医学を学び、帰国後は藩医として父の後を継いだ。21歳のとき江戸に出てさらに蘭学を学び、24歳で藩校明道館の学監同様心得に任じられ、その後藩主松平春嶽公に仕え、將軍継嗣問題や外交問題等の国事に奔走した。昭和33年、左内先生100回忌を機に福井市に橋本左内先生顕彰会が設けられ、毎年4月11日に生誕祭が今日まで連綿と執り行われている。

(1) 生誕地と御物啓発録碑

春山2丁目の生誕地には左内先生が育った宅跡を示す石柱と左内先生の産湯に使われた井戸とともに“常盤の井”の標石、そして“御物啓発録碑”が保存されている。御物啓発録碑に刻まれている「啓発録の5訓 “去稚心・振氣・立志・勉學・擇交友”」の筆跡は、左内先生が24歳のとき愛用の古い書類箱の底から出てきた自筆啓発録を改めて清書し直したものが明治になり御物として皇室に献納された「御物啓発録」より謹写したものである。



【生誕祭と生誕地】

3 清新な文化と歴史のまち、学びのまち

“学びのまちづくり”宣言

私たちは学びます ふるさとの歴史や文化を
私たちは学びます 春嶽公や左内先生や多くの人々を
私たちは学びます 家庭で 学校で 地域で

* H22年10月公民館まつり式典
春山小学校6年生代表が宣言

(1) “春山っ子”と橋本左内先生

春山小学校の児童は6年生になると全員が生誕祭

に参列し「橋本左内先生を讃える歌」を斉唱する。

“橋本左内先生を讃える歌”（二、三は省略）

一.常盤の松の 色にはえ 堅きみさおの 先覚者
その身は医家に 生まれしが
皇国をおもう ひとすじに 貫きとおす 金剛心
四.苦冤は洗い 難くして 二十六年 玉と散る
列士千古の いさおしは
足羽の水と とこしえに 流れて清く 芳しき

生誕祭に参列した6年生は「左内先生をしっかり学び、歌詞の意味するところを理解し一生懸命練習した、この歌を歌うことは春山っ子の大いなる誇りと話し、以下の趣旨の感想文を書いている。

《橋本左内先生生誕祭がありました。来ひんの人がいっぱい来ていました。そして毎年続けているということは、とても大切な式であるんだなという風に感じました。こういう事が毎年行われているということは、地区の人は左内が偉大だったと思っているのではないかと思います。10年後も50年後も、この式が行なわれる事を祈っています。》

また、6年生になると総合的な学習の時間に「橋本左内先生に学ぼう」と一人ひとりがテーマを決め、図書室で資料を調べ、地域の“左内塾”のメンバーなどから話を聞き学習を進め、A3版の「左内新聞」作成し、公民館まつりでその成果を発表している。

地域の偉人左内先生について調べその生き方や行動に関心を持ち、見聞を広げ、郷土愛を養うことが活動の目的である」と教員は語る。



【春山小学校6年生
橋本左内新聞】

(2) 春山地区に広がる学びの輪

春山は「清新な文化と歴史のまち、学びのまち」を掲げ、「私たちは学びます、家庭で、学校で、地域で」をモットーにさまざまな事業に取り組んでいる。公民館では毎年12月に橋本左内先生カレンダーを作成し、生誕祭に参加した6年生の集合写真を載せ、地区に全戸配布している。また、平成24年には冊子「春山のほこり橋本左内先生」を発刊し地区全戸に配布した。平成27年は、春山小学校創立100周年

記念事業として発刊された小中学生向け「橋本左内先生読本」の復刻を計画している。また、様々な学びの講座や学習を実施しており、地域での仲間づくりや絆づくり、まちづくりに大きく寄与している。

近年実施した少年教育の一端を紹介する。

① 子どものお花教室、お茶教室

子どもたちが伝統文化・生活文化に触れ豊かな人間性を育むよう、友と助け合いながら、1年を通じて学んでいる。公民館まつりでお茶席・生け花作品展で学びの成果を発表している。

② 子どもたちと福大生との交流

福大生のサークル活動と連携し、小学生が地域に目を向け行動範囲、交友関係を広めることを目指す。

- ・ゲームを通し防災・防災食を学ぶ防災教室
- ・福井大学に隣接する雑木林で、自然と触れ合うネイチャー教室（肝試し、巣箱作りなど）

4 春山が誇る“全員参加の住民活動”

春山は、昭和39年の福井市市民憲章制定を機に、すべての地区民が地域活動に参加できるように、「親切運動部」「健康増進部」「環境美化部」「きまりを守る部」「文化教養部」の5つの部会を立ち上げ各部に自治会長（75名）と公民館運営審議会委員（20名）が所属し、運営審議会委員は各部の正副部長として指導的な役割を担っている。こうした、独特な取り組みは全員参加の住民活動として評価されている。

＜おわりに＞

私たちは、清新な文化と歴史を守り伝え、誇れる春山を作り上げてこられた多くの先達・先人・地区の皆さまに、感謝の念を捧げ、これからも皆さまの熱き思いをしっかり受け継ぎ、さらに新しい息吹を吹き込んでいきたいと考える。現在掲げているまちづくりのテーマ「春嶽公と左内先生の春山～清新な文化と歴史のまち、学びのまち～」と「学びのまちづくり宣言 ～私たちは学びます 家庭で 学校で 地域で～」は春山地区の永遠の誓いである。

春山公民館は、地区にある様々な社会的・歴史的資源や文化的な課題を把握、それらを「まちづくり」推進のための活動につなげてきたことが評価され、平成18年度文部科学省優良公民館として表彰されました。「学びのまちづくり宣言」を基に、全員参加の意欲的な住民活動の取組内容を紹介しました。

夢と地域を結ぶふるさと創り

—子どもたちに自慢できる故郷を—

社西公民館

1 社西地区の概要

社西地区は、昭和43年（福井国体開催年）以後、市内外・県内外よりの居住者が大幅に増えてきて、昭和58年に社西小学校が開校するとともに、地区の形ができてきた。平成3年4月には、社南・社北地区より分離し、社西公民館が開館した。その当時は、人口6,061人、世帯数1,869戸、高齢化率12.1%であったが、平成27年2月には、人口5,933人、世帯数2,269戸、高齢化率30.3%、（福井市平均26.6%）となり、他地区と同様に高齢化率が高くなってきている。

当公民館は、福井市で49番目にできた公民館であるが、そのために、地区住民の「ふるさと創り」への思いは強く、現在もその強い思いが地域活動を支えている。

2 ホタルの飛び交うビオトープ・狐川



【源氏ホタルの幼虫の放流】

(1) ビオトープをつくろう

社西小学校の総合学習がきっかけとなり、平成12年に、社西小学校内にビオトープをつくる計画が立てられた。それまで、地区内にある「社西ふるさと創り協議会」が中心となり、「狐川にホタルが住めるようにしよう」という運動が続けられてきていた。その一環として、公民館でホタルの飼育などがなされていたが、十分な成果を得るためには、さらなる研究が必要ということで、ビオトープづくりの計画が持ち上がった。住民へのアンケートの結果、反対

はなく実現の運びとなった。

平成13年、社西小学校の子どもたちとの定期的な会議などを経て、まずは模型作りから始めた。作られた模型は、公民館まつりで展示され、広く住民にアピールすることができた。

(2) 住民の力によるビオトープづくり



【平成26年5月完成のビオトープ表示板】

きれいな水の確保と淀みない水の動きを考え、「井戸を掘る」ことから始めた。当初、完成までに4～5年かかるだろうと思われていたが、住民や業者、小学校の児童・教師、PTA等の協力と奉仕により、着工から8ヶ月で完成をみる事ができた。その間、延べ870名の人たちの手弁当での作業奉仕があり、住民の思いの強さを実感することができた。

現在は、有志の集まりである「ほたるの光、希望の光、夢のあふれる社西を実現する会」、略して「ほたる社西の会」が結成され、管理・運営に当たっている。また、社西小学校の空き教室を利用して、ホタルの幼虫を飼育し、毎年3月に放流をしている。時期になると、自生のものも含めて、多くのホタルがビオトープを飛び交っている。

ビオトープに作られた田んぼでは、社西小学校の児童による田植え等も毎年行われ、地域住民の宝として大事にされている。

(3) 狐川流域まちづくり協議会

狐川流域の木田・豊・社南・社西・社北・東安居の6地区で、「狐川流域まちづくり協議会」がある。

その組織には、公民館長をはじめ、連合自治会長や地区民（ボランティア）を含めた各地区4名のメンバーからなり、事業のひとつとして「狐川にホテルが飛び交う風景」の実現を目指し、研究に取り組んでいる。

現状を知るために、狐川の水質検査や生態検査を1年かけて行い、パンフレットにまとめることから始め、平成27年1月には研究会を行い、飼育して大きくなった幼虫を狐川の上・中・下流の3地点に50匹ずつ放流し、結果を観察している。

3 「ちもり一座」の活動

(1) 歴史と防災を伝える

旧社村は、東大寺領道守荘として、よく知られている。社西地区もその範囲に含まれている。その古い歴史を伝承していくために、当地区久喜津にあった「輪中」を取り上げ、広く住民に伝えていこうということで、学習を始めていくことになった。「輪中」とは、「河川の氾濫による被害を防ぐために集落を堤防で囲んだ構造にしたもの」である。

当初は、印刷物の配布という形で行ったが、なかなか浸透せず、劇にして見てもらうことで、より広められるのではないかという思いで、平成20年から「ちもり一座」の活動が始められた。「ちもり一座」は、現在、一般公募により集まった小学生や20代から80代までの住民、27～28名の座員で活動を行っている。公民館の館長・主事もその一員となっている。1ヶ月に1回例会を行い、公演が決まると週1回の練習を続けてきている。



【劇の一場面（福井市成果発表会にて）】

旗揚げ公演は、平成21年に社西小学校を会場に行い、地区住民、約300人が集まり大盛況であった。その後、社西小・社中・福井市の成果発表（3回）などで公演を続けてきている。

(2) 劇の特徴

平成23年には、「全国防災ドラマコンテスト脚本の部」で優秀賞を受賞した。講評では「この物語には、都市計画を住民が自分たちでつくったこと、災害から村を守る自主防衛の心構えなど、現代に通じる先人の知恵を読み取ることが出来る。今後の地域づくりに大いに参考になる。」と高い評価をいただいた。

劇は「今から297年前、村人は度重なる水害に怯えて村を捨てるか、水がきたらどこへ逃げるか、堤防さえあればなあと心配しながらも、大切な先祖の田圃は守らなければと思案に迷う日々を過ごしていた。そして、輪中の建設を決意した。工事開始から3年、久喜津村を取り巻く高い堤防、輪中が完成し、村は豊かな村に立ち直った」という内容で、地区の先人たちが苦勞して輪中をつくり、安心して耕作できるようにになった経過をドラマ化したものである。

4 おわりに



【公民館玄関の「ふるさと創り協議会」の掲示板】

昔のように沢山のホテルが飛び交っている風景を夢見、出来る限りの活動を進めた。その結果、ビオトープは、子どもや住民の大きな誇りとなった。「ちもり一座」は長編や寸劇も取り入れ、輪中だけでなく、社西の歴史を伝える活動をさらに続けていくことが大事であると考えている。

これまで、住民を巻き込んだ事業を展開してきて、多くの成果が得られた。特に、「人材の発掘ができた」「住民同士の交流ができ、地域への愛着を増すことができた」ことが大きい。今後も、子どもや若者が、未来に夢を持ち続け、誇りと思えるような地区づくりを住民一人一人が意識できるように、工夫・努力を重ねていかなければならない。

社西公民館が、地区住民の「ふるさと創り」に対する思いを的確にとらえ、それを地区住民の手で実現できるように支えてきたことが大きな成果となって表れてきたのだと実感できる。それが、地区住民のつながりを強くし、地区への愛着の醸成につながってきたのだと思う。

地域の自然と文化を生かしたまちづくり

— 地区の伝統・文化を見直す —

文殊公民館

1 地区の紹介

霊峰文殊山に抱かれた田園地帯である。市中心部から7キロ程の距離にありながら、自然豊かな地区である。古くから人々の暮らしが残した歴史・文化が今なお色濃く現存し、旧来の伝統が弱まったとはいえ、社会や時代が様変わりしていく中、生活に連綿と根付いている。同時に旧弊にとらわれない闊達な風土も備えており、人々の暮らしはしっかりと大地に根付いている。

現在、JR、国道8号線、高速道路が通り、福井市の大動脈を支えている。また、数年後には新幹線も走る。人口約2,400人、戸数620戸(平成27年4月現在)のこじんまりした地区である。

2 公民館の活動



多岐にわたる教育事業を中心に、活発な活動を行っているが、5年計画で、度ごとにテーマを設定し、それに基づく取り組みを進めている。平成26年度は「地区の伝統・文化を見直す」、平成27年度は「安心・安全な地域づくり」であり、地区の諸団体と連携しながら取組を行っている。この計画は、将来の地区の構想を描くために、地区を再発見し、課題をつかもうという一連の取組であり、また活動を通して地区の人々の心の結びつきを強くしていこうという期待もある。

(1) 郷土学習

伝承料理を学び、地区の食材を見直すという視点に立ち、実際に料理を作り、味わう活動に取り組んでいる。親子を対象に、伝承料理の作り方やお膳で食事をする体験をしてもらっている。子どもたちが、打ち豆作りに楽しそうに取り組んでいたのが印象的であった。

(2) 市民学習活動促進事業

講師を招いて能楽体験、門松づくり、菊栽培など、地区の方々から要望のある学習内容を提供している。

(3) 若者の地域参画

新成人の集いでは、地元の方に伝承料理の幕の内弁当を作っていただき、ふるさとまごころいっぱい詰まったお弁当を参加した若者に提供した。お弁当に舌鼓を打ち、話に花を咲かせていた。また、そば会では、老若男女が参加してそば打ちを体験し、挽きたて、打ちたて、茹でたてのそばを堪能した。

(4) 福井学（はつらつ伝承塾）

小学3年生を対象に「ふるさと発見—文殊のひみつ—」という出前授業を行っている。平成26年度には、「文殊山のひみつ」、「だんごまきのひみつ」、「大土呂駅のひみつ」、「宇野重吉のひみつ」等の資料を用意して出前授業を行った。郷土学習の時間に地元の自主グループのメンバーが屋台方式で子どもたちに話をし、質問に答えたという活動である。

3 行事紹介

(1) 文殊やまのぼり大会と「歩こう会」

平成27年度で21回目を迎える恒例の行事である。文殊山登山に挑戦し、その後、広場での記念演奏会や鍋のおもてなしに地区内外の人が集い自然の懐で半日を楽しんでもらう行事である。スタッフには地区の各種団体に学生ボランティアも加わり、参加者

は多い時は700名を超える。

「歩こう会」は、自然あふれる地区を歩いて、歴史・文化を探り、専門家に地区にまつわる話を聞く会である。仲良く歩いて健康にも努め、併せてふるさとのことを学ぶという企画で、文殊山の自然観察会と文殊山にゆかりのある地区の歴史遺跡や文化財を探訪するものである。

年3回実施している。

(2) 地域の学校や団体との連携

文殊公民館の取組の特長のひとつとして、自主サークルや幼保小中高及び児童館との連携を積極的に進めている。公民館がコーディネーター的役割を担うのではなく、公民館事業に積極的に結びつけるようにしていることである。

例をあげると、小学校への出前事業に自主サークルが参加。それに対して公民館は子ども用資料を作成する。子どもたちからはお返しに「カルタ」や「感想文集」が寄贈される。また教育事業で中学生が地区の人たちと一緒にもちつきに参加し、試食する。幼稚園や保育園、児童館で教育事業を行う。お返しに公民館に幼児・児童が来訪し、イベントに参加をする。さらに、自主グループに料理に関する教育事業に参加・協力していただくといったことである。



(3) 特別編

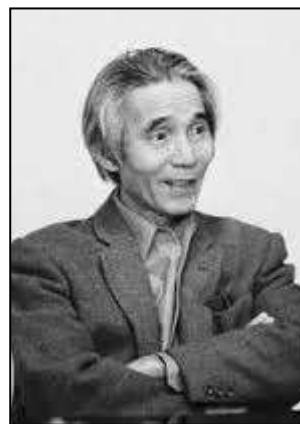
宇野重吉生誕100周年記念事業（平成26年度）地域の生んだ演劇人、宇野重吉の生誕100年を記念し、宇野さんの記憶を呼び起こそうという事業を、福井市中央公民館の福井学基礎講座と共催で行った。

7月12日（土）には、「演劇に生きた宇野重吉一生涯百年を迎えてー」というテーマで、宇野重吉顕彰特別事業・演劇祭実行委員会事務局長の飯田正寿氏に文殊公民館で講演していただいた。当日は、文殊

地区の人や福井学基礎講座の受講生、総勢100名以上が耳を傾けた。

また、米倉齋加年さんの劇団「海流座」をはじめ、多くの関係者の協力を得て、講演会、トークショー、映画会、テレビ番組試聴会、演劇碑看板設置などの催事を行い、記念誌も発刊した。さらに母校の小学校児童にも宇野さんの学習の機会を設けた。

そして、宇野さんの〈演劇の碑〉を保存していく活動を地元に住む機運にもつながった。



4 明日へ

文殊地区の課題に気づき、課題への取り組みを通して地区のみなさんの心の結びつきが強まり、地区のみなさんの日々の生活が闊達で潤いのあるものになり、安心して暮らせる〈環境〉が築かれる土台づくりも公民館の果たす役割の一つである。そうした積み重ねが地区の人々の将来の展望を描く大切な要素となっていくと考え、みんなの公民館としてより充実した活動に取り組んでいる。公民館が、人と人とのネットワークをつくり、ささやかだけど、いつも何かやっているなど感じさせる公民館活動でありたいという願いを込めながら、日々取り組んでいる毎日である。

文殊山は、文殊地区のシンボルであるということを強く印象づけられた。文殊公民館のいろいろな事業は、文殊山と関連する内容のもの、地域への愛着を深める内容のもの、地域の方々からの要望をかなえる内容のもの、地域の子もたちとのふれあいを深める内容のもの等と大変盛りだくさんな内容があり、館長さん、主事さんの奮闘ぶりがうかがえた。

福井市の公民館のあゆみ（その1）

1. 公民館の始まり

昭和21年7月5日付『公民館の設置運営について』の文部省次官通牒の「公民館設置運営の要綱（抜粋）」

これからの日本に最も大切なことは、すべての国民が豊かな文化的教養を身につけ、他人に頼らず自主的に物を考へ平和的協力的に行動する習性を養ふことである。（…省略…）今後の国民教育は青少年を対象とするのみでなく、大人も子供も、男も女も、産業人も教育者もみんながお互に睦み合い導き合ってお互の教養を高めてゆく様な方法が取られねばならない。（…省略…）それは亦青年団婦人会などの町村に於ける文化団体の本部ともなり、各団体が相提携して町村振興の底力を生み出す場所でもある。此の施設は上からの命令で設置されるのではなく、真に町村民の自主的な要望と協力によって設置せられ、又町村自身の創意と財力によつて維持せられてゆくことが理想である。

2. 福井市・福井市周辺部の公民館の誕生（基盤確立期）

福井市

昭和21年12月 1日	福井市公会堂の玄関に公民館の看板を掲げ、議事堂で学級・講座を実施（公民館の誕生）
昭和22年 1月12日	社会教育団体を中心に一般市民の要望により、福井市公民館建設の具体化促進のため公民館委員会を設置
昭和22年 2月	福井市公民館を創設し、市役所3階に事務局を設け活動を開始
昭和23年 4月 1日	東安居・円山・和田・啓蒙（昭和14年に編入した周辺地域）の4か所に福井市公民館の分館を設置し、それぞれで学級・講座をはじめとした文化活動や、地域の運動会・敬老会・慰霊祭・芸能祭・成人式・囲碁大会・かるた会・ハイキングなどの活動を展開 運営審議会は運営審議会委員長だけ任命され、年2回、市が召集した会議を開催

※福井市周辺地区や後に合併した地区では、村条例に設置要綱が取り入れられ、公民館の誕生が積極的に進められた。小学校の一室や寺院、役場・農協から始まり、終戦後まもなく急速に結成された婦人会、青年団、PTA等を中心として団体活動、文化活動が活発に行われていった。

殿下村（昭和38年に福井市に合併した現在福井市殿下地区）

昭和21年10月	殿下小学校に青空公民館として殿下村公民館が誕生 (小学校を拠点として、学校の教職員も含め青年・婦人・壮年・老人が集まり、いろいろな課題を持ち寄っての話し合いや、文化活動や団体活動が盛んに行われた。)
昭和22年 6月	福井県社会教育大会が殿下村公民館で開催
昭和22年11月 3日	殿下村公民館が全国で4館の優良公民館の1館として文部大臣から表彰
昭和23年 3月	北陸三県の公民館長大会開催（公民館のトップレベルとして活動）
昭和24年	殿下村に公民館条例・規則制定 殿下村の広報紙「かじか」創刊（現在も継続）

東郷村（昭和46年に足羽町として福井市に合併した現在の福井市東郷地区）

昭和21年 9月	東郷村公民館が発足 酒生・一乗・上文殊・文殊・六条の各村にも公民館が誕生（館長は村長が兼務）
----------	---

森田町（昭和42年に福井市に合併した現在の福井市森田地区）

昭和21年 5月	森田町青年団が発足（①団員の知性向上②地域社会への奉仕③交友による親交を図る）昭和
26年 5月 1日	森田公民館が元九頭竜青年学校校舎に設置（文化教養機関の総合拠点として） 森田公民館青年学級が開講（勤労青少年を対象に、月1・2回開催）

公民館メールマガジンのご案内

メルマガ会員を募集中です。

各公民館の「毎月の行事予定」「教室・催し」「お知らせ」など月に1、2回メール配信が届きますので、ぜひご利用ください。

空メールを送るだけで簡単に登録できます。

右のQRコードを読み取って希望の公民館を選び、空メールを送信
返信メールが届けば、登録完了です



第2号 掲載館

公民館名	住所	電話番号	メールアドレス
春山公民館	〒910-0017 福井市文京3丁目11-12	(0776) 22-0057	haruya-k@mx1.fctv.ne.jp
社西公民館	〒918-8047 福井市久喜津町65-23	(0776) 34-7910	ynisi-k@mx1.fctv.ne.jp
文殊公民館	〒919-0323 福井市太田町4-11-2	(0776) 38-0550	monjyu-k@mx1.fctv.ne.jp

福井市の公民館 第2号編集委員

中央公民館運営審議会委員	中嶋貴美江・鋸屋恵美子
生涯学習室	藤田 直美
社会教育指導員	小西 信子・稲葉 友昭
	小林 修二
中央公民館	平馬 吉隆・小清水直美
	田村 榮子・塩崎めぐみ

公民館の歌 (自由の朝)

山口晋一 作詞
下総皖一 作曲

楽譜に ♩ -104

一. へ い わ の は る に あ た ら し く
二. こ い ろ の は を の に お や か に
三. こ ぼ た ら く も の の や す ら か に

きょう ど を お こ す よ ろ こ び も こ う み ん か ん の
きょう ど に お ひ ら す た の し ゃ も こ う み ん か ん の
きょう ど に い き る

つ ど い か ら と き け ば あ う こ じ こ ろ な う ご つ や 一 か し
つ ど い か ら と き ば ど い 一 を な こ ね に ひ と や と 一 し
は い に じ ぶ あ やんすへ のの あいさすみら たくたみえう

公民館の歌 (自由の朝)

山口 晋一 作詞
下総 皖一 作曲

一. 平和の春に あたらしく

郷土を興す よろこびも

公民館の つどいから

とけあう心 なごやかに

自由の朝を たたえよう

二. 心の花の におやかに

郷土にひらく ゆかしさも

公民館の つどいから

希望を胸に 美しい

文化の泉 くみとろう

三. 働くものの 安らかに

郷土に生きる たのしさも

公民館の つどいから

まどいになごむ ひどときに

明日への力 そだてよう

福井市の公民館

監修 福井市生涯学習室
発行 平成27年6月

福井市中央公民館
〒910-0858

福井市手寄1丁目4-1

TEL 0776-20-5459

FAX 0776-20-1538

Eメール: cyuou-k@mx1.fctv.ne.jp

<http://www1.fctv.ne.jp/~cyuou-k>

